

科目名	インバウンド観光	科目分類	■専門科目群（第1グループ） □総合科目群（第2グループ）
			観光学科 □必修 ■選択 学科 □必修 □選択
英文表記	Inbound Tourism	開講年次	□1年 ■2年 □3年 □4年
ふりがな	よこた けいざぶろう	開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中
担当者名	横田 恵三郎	修得単位	2単位
授業のテーマ	わが国「観光立国」戦略の要であるインバウンド観光の現状と将来を、歴史的経緯を踏まえながら学習し、理解する。		
授業概要	インバウンド観光の果てしてきた役割、意義、背景など歴史的経緯を学びながら、2020年・4000万人、2030年・6000万人の外客数目標とその達成の重要性を理解する。また将来、観光先進国としての地位を確保するための課題と取り組み状況を学習する。		
到達目標	インバウンドについて明治時代から今日にいたるまでの大まかな流れならびに現状、そして今後の方向を自身の言葉で説明できるようになる。		
授業時間外の学習	日本政府観光局より毎月統計データが発表されるので継続的に内容を確認して下さい。		
履修条件	「アジアの観光地理」を既に履修した者、または現在履修している者。 また、将来、旅行会社、ホテル、航空など観光関連企業などに進みたいと考えている人はこの科目の履修が望ましい。		
授業計画			
第1回	ガイダンス インバウンドとは？そしてなぜ今インバウンドなのか。		
第2回	外客誘致の歴史① 明治～戦後の黎明期		
第3回	外客誘致の歴史② 戦後成長期～海外旅行自由化とアウトバウンドの逆転		
第4回	20世紀の国際観光政策		
第5回	21世紀に入ってからの動き（観光立国宣言、ビジット・ジャパン・キャンペーン、観光立国推進基本法等）		
第6回	インバウンドの現状と課題①（外客数の推移、経済効果、外客旅行者の旅行動向）		
第7回	インバウンドの現状と課題②（日本の観光資源、日本に対する印象）		
第8回	インバウンドの現状と課題③（見えてきた諸課題）		
第9回	インバウンド関連法規		
第10回	旅行会社社員による実務講演		
第11回	拡大を続けるアジア・マーケットの特性（韓国）		
第12回	拡大を続けるアジア・マーケットの特性（中国、台湾）		
第13回	観光立国から観光先進国へ①（3つの視点と10の改革）		
第14回	観光立国から観光先進国へ②（3つの視点と10の改革）		
第15回	まとめ		
第16回	定期試験		
テキスト	毎回、関連する資料を配布します。		
参考文献・資料	授業中に紹介します。		
成績評価の方法	定期試験・小テスト50%、授業態度・取組姿勢50%		
成績評価基準	【平成27年度（2015）以前に入学した学生】 優（100～80点）、良（79～70点）、可（69～60点）、不可（59点以下） 【平成28年度（2016）以降に入学した学生】 秀（100～90点）、優（89～80点）、良（79～70点）、可（69～60点）、不可（59点以下） ※出席回数が規定に満たない場合、試験を受けることができません。		

オフィスアワー	① 毎週火曜 午前中 ②毎週木曜 午前中
学生へのメッセージ	人口減少の避けられない日本、このままでは経済小国になります。その救世主にならんとしているのがインバウンド観光です。将来観光関連産業に就きたいと思っている人は知っておくべき内容です。